



2003年度 血液凝固検査サーベイ報告

【はじめに】

- PTでは、抗凝固療法の指標として International Normalized Ratio (以下 INR)による報告方法と活性%の集約性の比較を行なった。
- 複合因子については、PTとの互換性と集約性について調査を行った。
- フィブリノーゲンについては日常的凝固検査における定量項目であることから、各施設の正確度の評価を行った。



血液凝固サンプルサーベイの概要

実 施：平成15年10月8日

実施項目：PT・複合因子・

フィブリノーゲン

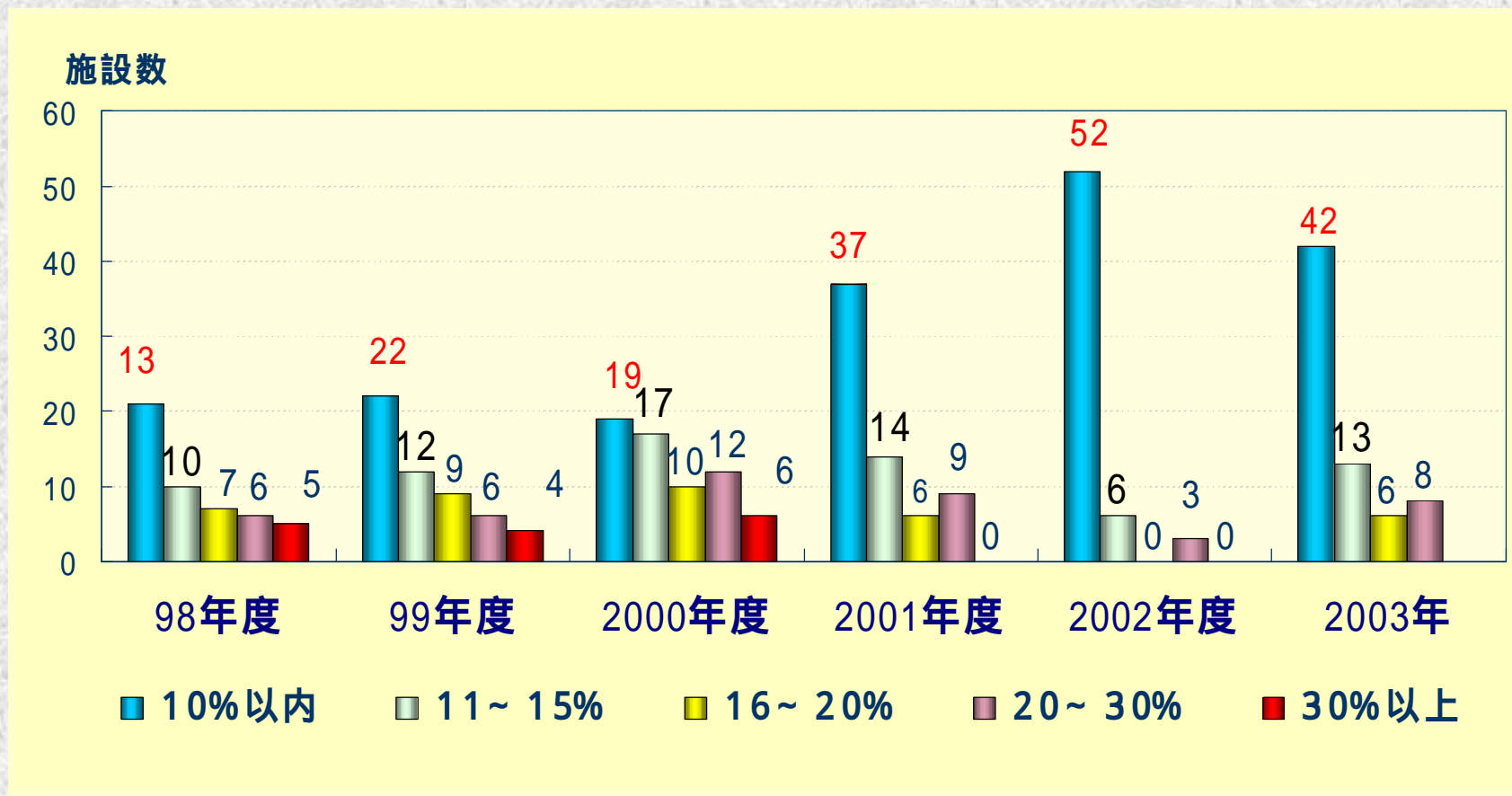
試 料：サンプル1・2・3

凍結乾燥血漿

参加施設数：73 施設

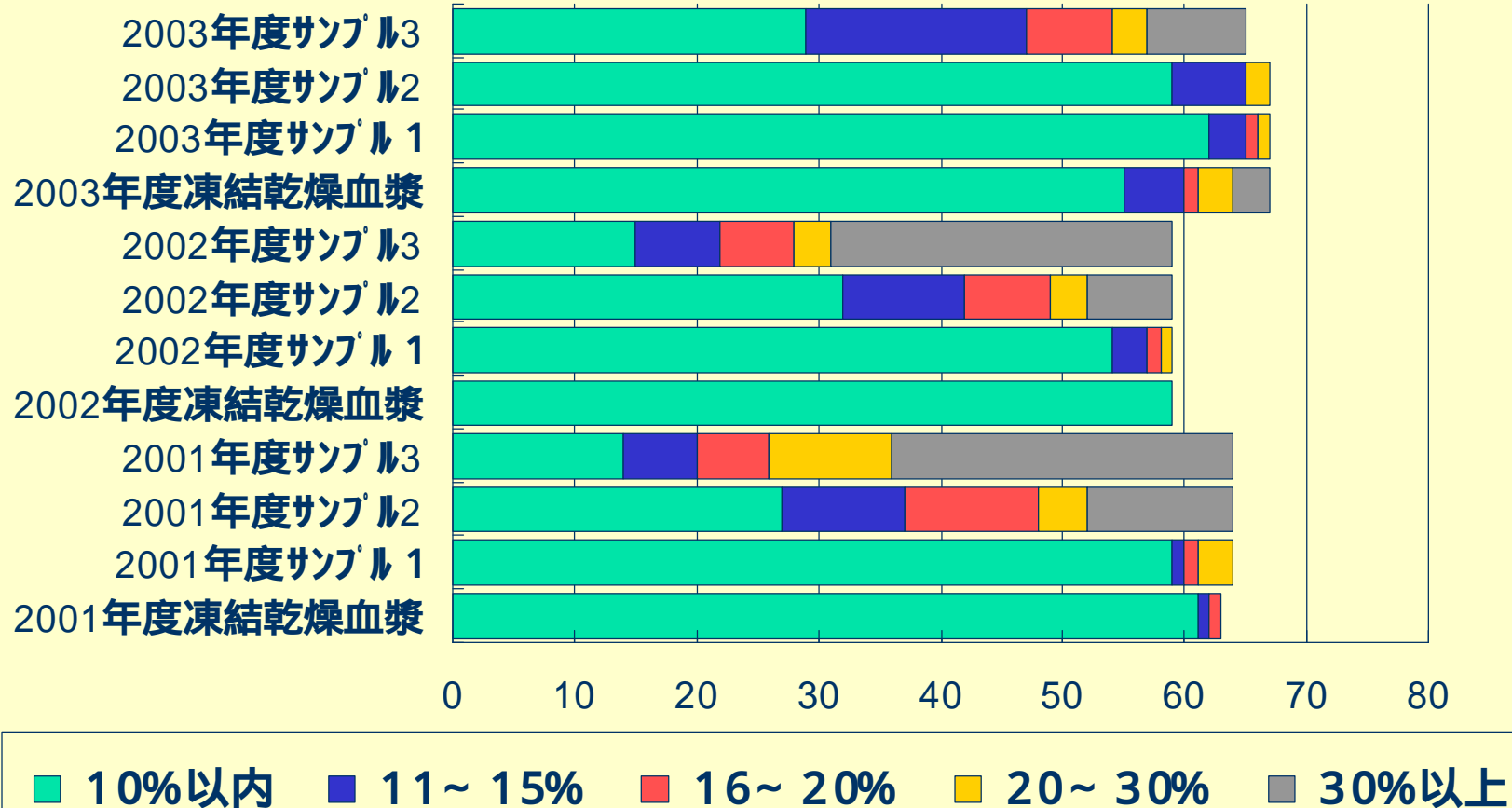


PT活性%の集約性について





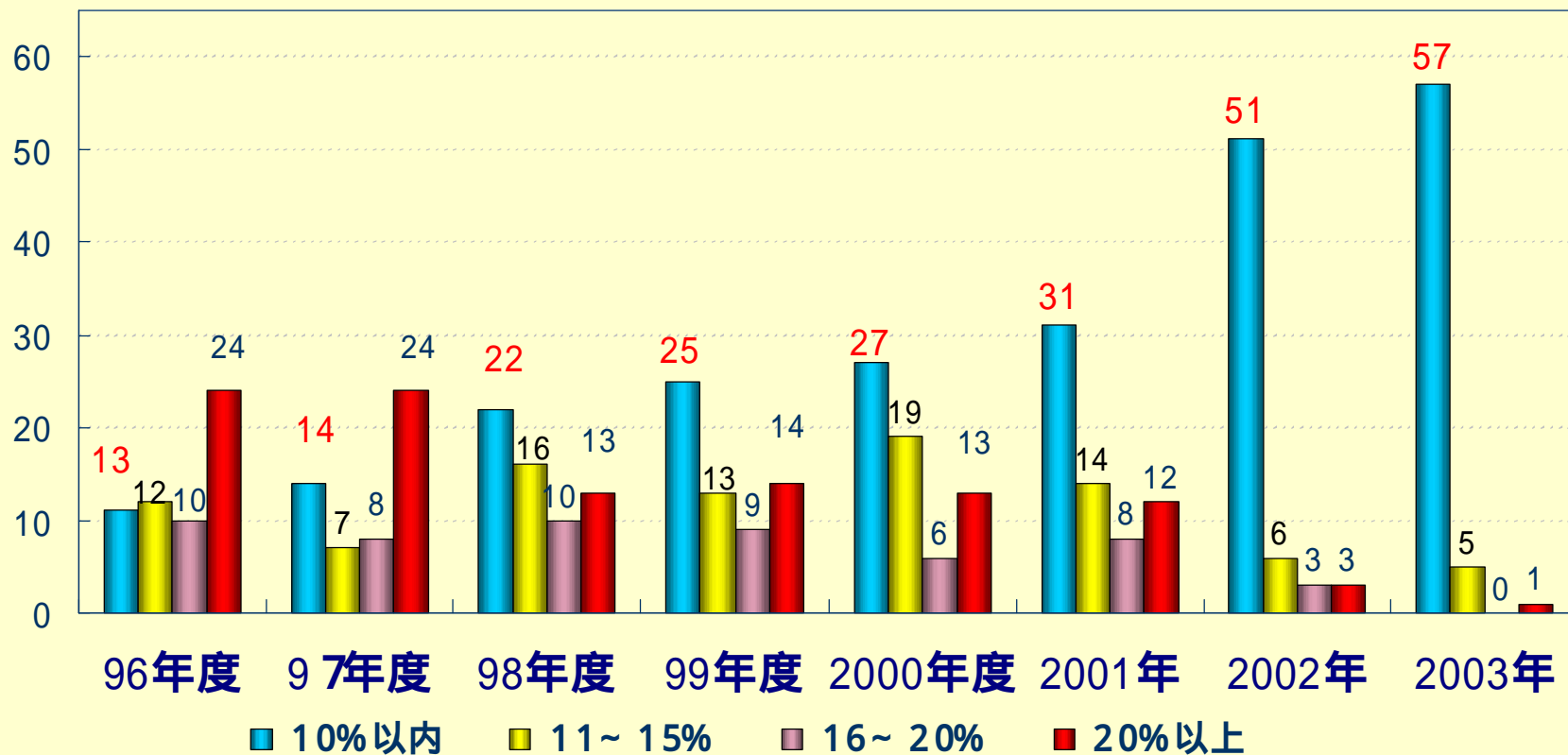
PT- NRの集約性について





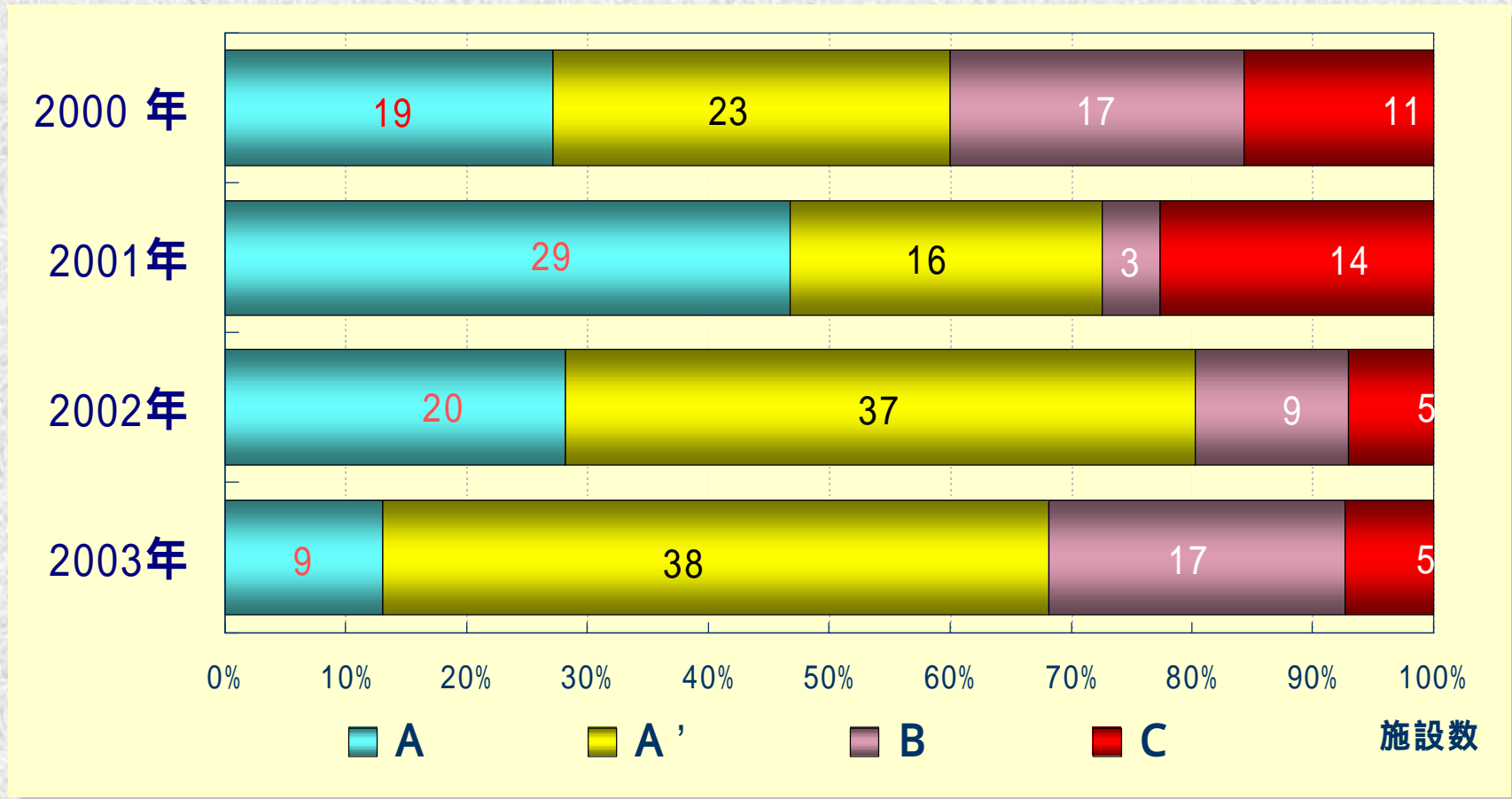
フィブリノーゲンの集約性について

施設数





施設評価の年次推移





凝固サーベイまとめ

- ✦ PT試薬では、高感度試薬を採用する施設が増加し、報告様式も活性%やINRという標準化に向けた方法に変化している。
- ✦ 各施設から報告される活性%データについては年々集束しつつある。しかし、INR表示は低活性検体でのバラツキが多く、INR用のキャリブレーターの使用が望まれる。
- ✦ フィブリノーゲンについては9回目のサーベイとなるが、年々の集束率が高まっている。
- ✦ 総合評価については、A評価施設の減少傾向が認められる。減少の原因としてPT-INRの報告値に問題のある施設が認められる。

凝固検査 今後の課題

活性%システムの課題

✦ PTにおける活性%やINRシステムには問題点があることを考慮して標準化してゆかなければならない。特に両システム共に、計算の基となる基準血漿をどのようにするか問題となる。メーカーから提供される正常血漿が必ずしも基準血漿として扱って良いものではない。今後、何らかの基準を設ける必要があると思われる。

特に、PT-INR測定に際しては、高価な試薬ではあるがキャリブレーションを実施し、キャリブレーション前後のデータについて確認することを薦める。